究を進めてきた経緯があり、類似したフィールドに恵まれたこの鶴岡の地で教職を務めるという機会を頂くことができ、心から嬉しく思っています。着任してまだわずかな期間ですが、時間を見つけては庄内やその周辺の山々を歩き回り、野生動物を日々観察する生活を送っています。

山形県は豊かな森林に囲まれ、多様な野生動物の生息地となっています。しかし、このことは地域住民との軋轢を発生させる原因となっているのも事実であり、ニホンザルによる農業被害や、ツキノワグマによる人身被害を懸念する市民の声は年々増加の一途であるとお聞きしています。また近年、ニホンジカやイノシシといった大型哺乳類、更には外来哺乳類であるアライグマの目撃情報も増加しており、野生動物問題は今後も拡大・深刻化することが推測されます。

東北地方には、野生動物管理を取り扱う大学やその他の研究機関は残念ながらほとんどありません。この現状を踏まえて、私の研究室では、野生動物管理にかかわる新たな知識や技術を創出すること、そしてその担い手を一人でも多く社会に輩出することを目標に、日々努力していきたいと考えております。当該コースで最も年齢の低い若輩者の教員ではありますが、その若さを武器に精力的な教育研究活動を進めていければと思います。今後も鶴窓会会員の皆様には、ご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

研究室ホームページを立ち上げました。関連情報を随時アップデートしていきたいと思いますので、お時間のある際はご覧いただければ幸いです。

http://www.tr.yamagata-u.ac.jp/~enari/index.html

食料生命環境学科
安全農産物生産学コース 助教
松本 大生

平成25年4月より、安全農産物生産学コース果樹園芸学分野の助教として着任致しました松本大生と申します。この場をお借り致しまして皆様にご挨拶申し上げます。

私が研究を志したのは、植物の生殖現象の一つである自家不和合性に深く興味を抱いたことによります。自家不和合性とは雌蕊が血縁関係の近い花粉を識別し拒絶する現象であり、子孫の多様性を保証する機構です。自然界においては種の繁栄に利益をもたらしてきた自家不和合性ですが、人為利用の場においては、授粉が結実と直結しないという本質のために安定的果実生産・効率的育種に対する主要障害の一つとみなされています。私はこれまで、五感をもたない植物はどのようにして理想的な異性を識別するのかという素朴な疑問を研究動機の根本に据えつつ、機構解明を通じた栽培・育種への貢献を目標として研究活動に邁進して参りました。

学部では、京都大学農学部栽培植物起源学研究室にてソバの自家不和合性を決定する遺伝子のマーカー開発に携わり、大学院では、京都大学大学院農学研究科果樹園芸学研究室にてオウトウをはじめとしたサクラ属果樹の自家不和合性機構研究に取り組んで参りました。昨年は京都大学大学院農学研究科附属農場に助教として着任し、圃場管理を改めて学ぶとともに、ブドウの受精と着果に関する研究を行いました。この一年は自家不和合性と離れた唯一の期間となりましたが、圃場管理と着果研究の経験は学術的見解と栽培上の問題意識を近づけるよい機会となりました。

本学に赴任させて頂いた現在ですが、当時完遂できなかった課題であるサクラ属果樹の自家不和合性分子機構研究に再び着手し始めた一方、新たな課題を模索しているところであります。本学の位置する山形県は主要果樹のみならず特産果樹に関しても一大産地として著名であり、課題発掘、研究および成果還元の場として非常に恵まれた地であると感じています。今後は、果樹王国山形にて生殖現象をはじめとした果樹生理現象の解明・応用を目指し、学生と共に研究を楽しみつつ、広く教育、地域還元に励みたく考えています。まだまだ未熟者でありますゆえ、皆様のご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

特別会員の声

演習林の回想

元農学部林学科教授
鶴岡市在住
金内 英司
（昭和25年林科卒）

林学科卒業生は、庄内で同期会（昭和30～45年卒が多い）を開催すると、最終日は必ず演習林見学が計画されている。皆さんも高齢となり過ぎ去った演習林実習の想い出は懐かしいと思う。私も学生時代の演習林実習は、今でも走馬灯のように想い出され懐かしい。演習林の案内を依頼されると、久方振りに会う卒業生そして演習林の昔話しができると思うと嬉しくなり、喜んで引き受けてきた。

過ぎ去った演習林の想い出を、皆さんの顔を想い浮かべながら思いつくままに書いて

みたい。

私が入学（昭和22年）した当時の演習林は県有模範林を演習林として使用許可されていた。宿舎は、現管理棟の敷地内にあった民有の鉱山小屋で、食糧、寝具は各自持参であった。当時の林内は、杉の植栽本数から推測した面積、傾斜面は傾斜面積などが混在し、境界も不明確であった。そのため測量実習はコンパスによる林班界測量が約四年ほど行われた。内業は石油ランプのもとで対数表、ソロバンで斜距離を水平距離に換算し、分度器と物差しで製図した。

昭和24年8月、当時としてはモダンな管理棟が竣工したが、照明は石油ランプであった。学生室は上段、下段に分かれ、上段は室の両端の梯子と中央の梯子で昇降した。中央の梯子は昇降者が多く「銀座通り」の紙が張ってあった。梯子の近くに寝ていた学生は、酔っぱらった学生に体を踏まれるなどのトラブルが頻繁にあったようである。

昭和27年5月、充電式自家発電機が設置された。日中に発電して充電し、夜の照明に用いられた。学生室の壁には「起床六時、朝食七時、消燈九時」と書いた掲示板があった。「消燈九時」は、外業を終えて入浴、夕食、内業を終えてマージャン、酒呑みの時間で、予告なしの消燈には戸惑ったようであるが、ローソクを準備して深夜まで楽しんでいた。深夜まで楽しむと寝不足で「起床六時、朝食七時」に間に合わず、日中の実習もきつかったようである。

時は流れて昭和56年、現在の管理棟が竣工し、翌57年に待望の送電線と電話線が設置された。林道も整備され、実習・調査・研究にも一段と弾みがついた。演習林のシンボルの谷地幅にも自動車で行けるようになった（但し、マイカーの乗り入れは厳禁!!）。

昨年9月、42年卒の皆さんと演習林の車で谷地幅を訪れ、楽しい一時を過ごした。それから、最初の実習「スギ植栽地」調べておきます。ご来学をお待しています。

農学部OB・OG会

幹事長
旧附属演習林教授
山形県在住
塚原　初男
（昭和32年林学科卒）

会員相互の連絡と親睦並びに農学部の発展に資する事を目的として表記の会が発足したのは、阿部幸吉農学部長時代の平成7（1995）年、元山形県立農林専門学校（以下元農専）の創立50周年を祝って開催された宴会での盛り上がりから、と伝え聞いている。以来、会長役は置かない会とし、毎年1回、春の訪れを告げる鶴岡公園のソメイヨシノが満開となる頃を見計らい、隣の朝三小前の長南魚屋か公園内の出店を会場として、総会とそれに続く花見を兼ねた懇親会が開催されて来たという。

渡部俊三先生より当会の幹事長役を引き継いだのは、平成13（2001）年4月、定年退職翌年の総会からである。その当時、当会の主な活動は、前記総会・懇親会の開催と「たより」の手作り発行などであった。それらの経費には懇親会の残額と有志の方々からの浄財寄付金が充てられ、このような運営方式は現在も続いている。

会員は、在任期間の長短を問わず元農専及び農学部の教員として勤務された方々全員制と定められ、会員数は、発足当初から50名以上もの多数にのぼっていた。そのため、元農専及び農学部旧5学科と2附属施設のOB・OG若干名の幹事会体制による運営が始まり、現在は7名の幹事会運営が続いている。総会会場は、いつしかカフェテリア方式による昼食の可能な東京第一ホテル鶴岡に移された。

ご本人の定年を待ち受けるようにして、加藤功先生（昭和35年農学科卒・旧農学科寒冷地作物学教授）に当会の幹事長役をお願いしたのは、平成16（2004）年4月の総会からであった。当時のワープロによる「たより」の内容には、新会員の紹介、総会・懇親会出席者10数名前後の写真入り紹介、会計報告、会員と物故会員の名簿の編集などが定番であった。これに加えて加藤先生は、農学部の近況について各年度の事務長の方々に詳しく取材され、お陰で「たより」が一段と充実された。その伝統は現在も続いている。

不運にも加藤先生が急逝された後、当会の運営は、一旦は暗礁に乗り上げたかのように見えたが、平成22（2010）年、幹事会の中に幹事長（筆者）のほか庶務幹事、会計幹事の3役による事務局体制が確立し、当会規約の制定があり、新幹事の力量によってパソコンによる充実した「たより」の発行が可能になった。現在は、総会・懇親会のほか新会員を囲む当会の目的に沿った懇談会の開催や、約90部にのぼる「たより」の発行と発送が行なわれ、当会のホームページづくりなどが話題に上っている。

右から三人目が筆者

※農学部OB·OG会→農学部教員OB·OG会に「教員」が抜けておりましたので訂正してお詫び申し上げます。

学生研究支援事業報告

鶴窓会副会長
齋藤　博行
（昭和45年農学科卒）

本事業は、母校の発展に寄与する鶴窓会活動の一環としての事業ですが、学生の研究課題から出発し、大学、公設研究機関、企業との連携研究課題へと大きく発展することを期待している面もあります。

平成21年から開始した事業も5年目を迎え、農学部学生・教官にも理解されてきたように思います。特に大学院農学研究科の学生は学会における発表が必要となりますので、参加旅費として有効活用できると喜んでいます。また、一般学生も研究課題関連の学会に出席して卒論内容の学術性を高めているようです。

1研究課題に5万円の事業費として、本年度は20課題で百万円の予算を見込んでいましたが、鶴窓会会員からの研究要望がない状態でしたので農学部の先生に課題選定をお願いしたところです。

本事業の趣旨は、現場からの研究ニーズが特に重要ですので、勤務先や現場で話題になったことや農作業中に感じたこと思いついたことなどを研究要望として申請書を提出して下さるようお願いします。

リニューアルしました鶴窓会ホームページに研究支援事業申請書様式がありますので、事務局にメール、ファックス、郵送等で送付して下さい。いつでも受付していますが、来年度の学生卒論課題のこともありますので早めに提出して頂ければ幸いです。

さらに本事業の一環として、3月の農学部学位記授与式では、卒論内容が特に優秀な学生に鶴窓会長賞を贈呈し、今後の活躍を期待しております。

平成24年度の贈呈者は、生物生産学科生産生態制御学講座－木田弘貴さん、生物資源学科生物資源利用化学講座－関史恵さん、生物環境学科森林環境資源学講座－本田詩織さんの3名です。

なお、会費納入者が少ないと本事業の予算確保がままならない状況になりますのでご理解とご協力をよろしくお願いします。

鶴窓会長賞贈呈（平成25年3月17日）

平成25年度　山形大学農学部学生研究支援事業採択課題（実施学生、研究課題名）

1.大学院農学研究科　芳賀　学	山岳風衝地における登山環境保全のための植生復元に関する研究
2.大学院農学研究科　向田　拓弥	ネギの低リン耐性の品種間差とアーバスキュラー菌根菌の接種効果
3.食料生命環境学科　佐藤　慈仁	フキ用皮むき機の開発
4.食料生命環境学科　大竹　智美	長ネギの生育・収量を改善する効率的作業技術の確立
5.大学院農学研究科　沼澤　篤	祭りのソーシャル・キャピタル―新庄祭りを対象として
6.大学院農学研究科　簗詰　海彦	バイオマス鋤き込み還元土壌消毒における嫌気性細菌の機能
7.食料生命環境学科　鈴木　泰人	夏秋どりいちご“サマーティアラ”の収穫時期と果実品質の関係
8.大学院農学研究科　松田　詩織	AB15と14-3-3タンパク質との相互作用に関する生化学的研究
9.大学院農学研究科　佐藤　智美	イネにおける新規フィトアレキシン生合成遺伝子のcDNAクローニング
10.大学院農学研究科 名古　満	培養系SOD1欠損マウス卵でみられる異数性発生機序の解明
11.大学院農学研究科 星野　由貴	卵初期発生過程におけるVCの役割の解明
12.食料生命環境学科 出村　真理	庄内地域に生息する未知放線菌に関する微生物生態学的研究
13.食料生命環境学科 塙　壮太	渓流河川における渓流魚の避暑場の把握

「山形大学校友会」の紹介

山形大学校友会事務局長
鈴木　英一

佐藤会長始め、鶴窓会の皆様には、私ども「山形大学校友会」に対しまして、校友会設立から今日までひとかたならぬ御理解と御支援をいただいており、誌面を借りまして改めて厚く御礼申し上げます。

校友会設立後、今年で7年目となりますが、私どものPR不足等もあり、卒業生の皆様には、まだまだ御理解されていないのが現状です。そこで、校友会の設立の経緯・事業、同窓会との関係等について、紹介させていただきます。

「山形大学校友会」は、各同窓会（鶴窓会含む）、各後援会及び山形大学が発起人となり、本学の在学生、卒業生および教職員等を会員に、在学生の健全な成長と分散キャンパスの一体感の醸成活動を支援する組織として、平成18年12月に設立されました。

現在の会員数は、約1万5千名（卒業生47％）ですが、学生会員の卒業に伴い、毎年、卒業生会員が増加してまいります。そこで、これまでの在学生支援に加え、卒業生への支援充実を図るため、各同窓会を会則上「賛助会員」とし、ゆるやかな連合体とさせていただきました。また、大学との一体感をより強調するため、会長を本学の学長へ改正しました。（平成25年4月改正）

事業は、在学生の修学・課

外活動・就職支援、本学と保護者との連携、同窓会等への支援及び本学運営への支援などを実施しています。卒業生関連では、「各同窓会東京支部との情報交換会（12月）」、「卒業生講演会（12月）」、「山形大学ＯＢセミナー（3月）」開催や今年度の重点事業として、卒業生の皆様に「山形大学の応援団」として、就職、入試、国際交流など様々な分野で、アドバイザーになっていただくための「卒業生のネットワーク構築（結城プラン２０１３）」事業が含まれております。

校友会では「卒業生の皆様と山形大学との信頼関係を深化させて、大学の総合力の向上を目指す。」という目標に向かって、鶴窓会の皆様と連携・協力を仰ぎながら一歩、一歩進めて参りますので、引き続き御理解と御支援どうぞ宜しくお願い申し上げます。

また、以上のような本会の趣旨に御賛同を賜り、是非、校友会へご加入（生涯会費：1万円）いただきますようお願いいたします。ご加入いただいた皆様には、校友会会報（年1回）、広報誌（みどり樹、年4回）や山形大学の情報などを提供させていただきます。

（平成25年12月　記）

山形大学校友会支援事業
「ビーチサッカー大会」の開催

校友会理事・鶴窓会副会長
齋藤　博行
（昭和45年農学科卒）

一昨年に農学部と鶴窓会の共同提案事業として実現しましたビーチサッカーも2年目を迎えました。昨年は雨と強風の悪天候のために農学部体育館で開催しましたが、今年は晴天に恵まれた9月21日に由良海岸で開催することができました。

開会の挨拶は農学部夏賀副学部長と校友会副会長の人文学部阿部宏慈副学部長が行い、閉会の挨拶は佐藤晨一鶴窓会会長が行いました。

各キャンパスから参加した12チームの熱戦の結果、人文学部「真夏のタンクトップ男子」チームが優勝しました。

鶴窓会では昼食の芋煮の準備を鶴窓会事務局の村上さんと遠藤さんが調理して提供しました。豚肉・味噌味の庄内風芋煮と牛肉・醤油味の山形風芋煮の二種類を作りましたが、牛肉に軍配が上がったようです。浜辺での焼肉も、上等の牛肉・豚肉で選手からは「さすが農学部の開催のビーチサッカー」と喜ばれていました。

農学部の選手と職員には前日から由良温泉に宿泊して会場の準備や、台風18号で打ち上げられた砂浜の大量のゴミの掃除と大変な作業があったようでした。

実質初年目のビーチサッカーは大成功に終わることができました。校友会事業として開催しています工学部の「雪合戦大会」は地域イベントとして定着しつつありますので、今後は由良海岸のビーチサッカーもこれに続くことを期待します。

山形大学は小白川、飯田、米沢、鶴岡の各学部キャンパスが分散していることから、学生の連携を図るために平成20年に全学部対象にした校友会を設立して各種支援事業に取り組んで参りました。海外留学派遣、就職支援、クラブ活動支援等の事業に取り組んでいますが詳細は山形大学校友会のホームページをご覧ください。

「ビーチサッカー大会」由良海岸に於いて（平成25年9月21日）

農学部大学祭「鶴寿祭」について

11月3日に農学部正面玄関ホールで、卒業生が活躍している企業等の商品を展示販売しました。昨年から農学部の要請を受けて参加したもので、卒業生の「ホームカミングデー」としての位置づけでもあります。

昨年は、東北ハム、和田酒造、マルハチ、月山パイロットファームから出品して頂き、今年は本楯ファーム、でん六、日東ベスト、奈良県のおか果樹農園からも出品がありました。

会社としては商品ＰＲに学生には就職ＰＲになったことでしょう。卒業生が働いている企業ですから安心して就職できることでしょう。来年の大学祭に商品展示販売を希望する場合は、事務局にご連絡ください。